

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101504
法人名	有限会社 たまきメディカルサポート
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	徳島県徳島市国府町和田字居内4番地2 (電 話) 088-642-8430
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 7日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月 24日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤12人,非常勤0人,常勤換算 ユニット①6人,ユニット②6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,100 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	315 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 840円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低 72 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・田蒔病院 ・たまき青空クリニック ・盛歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道を少し入った静かな住宅街にグループホームがあり、地域に溶け込んだたたずまいである。玄関を入ると明るいピンク色の壁やカーテンのある共用空間が広がっている。職員は、理念の「ふれあい」を大切にし、利用者や職員、地域の方との連携を信念として、お互いに教え合い、支え合い、共に明るく楽しい生活が送れるように努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で改善項目であった、利用者の「権利・義務」について重要事項説明書に綴じ込み、本人や家族に説明し同意を得るようにされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、管理者、職員が話し合い作成している。外部評価の改善点も全職員で改善策を検討してサービスの質の向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、利用者の様子を伝えたり事業所の活動報告をしている。出席者からは、質問や励ましを頂き、地域の役員を介して、グループホームに対する理解が広がっている。運営推進会議録の記録があり、回覧した職員のサインもされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族や地域の人からのグループホームに対する要望の記録があり、適切に処理をしている。公的機関への申し出もできるように「重要事項説明書」に明記し、施設内担当者も決まっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や買い物時の挨拶を大切にしている。回覧板で地域の行事を知り、町内や堤防の清掃にも利用者と共に参加している。地域に溶け込み、信頼され愛されるグループホームとなるよう努めている。地域の役員の方々の理解も徐々に得られている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で新しい「理念」を募り、地域密着型サービスを意識した、地域と利用者、職員との「ふれあい」を大切にすることを理念として作成し、玄関やリビングに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が、繰り返し話し合い新しい理念を作成しておりミーティングや申し送りの時に意識向上に務めている。また、職員の名札の裏に理念を書いた紙を入れて、常に介護の指標としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板を届けてもらい、地域の一員として町内会の清掃や行事に利用者と共に参加したり、グループホームの行事案内を出し地域の人たちに参加を呼びかけたりしている。現在、子ども達の訪問もあり、少しずつ地元の一員として認知され、温かい双方向の関係ができてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者、職員が共に話し合い作成している。外部評価の改善点も全職員で改善策を検討して、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの報告や課題を伝えると共に、地域の要望や意見も聞いて対応されている。会議録も作成され全ての家族に送付している。現在、3ヶ月に1回程度、開催されている。	○	2ヶ月に1回の開催に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>解決困難な問題については市町村担当者と日常的に電話で報告し、相談をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には、利用者の元気な姿を「ホーム便り」で伝えたり、健康状態等何かある時にはすぐ電話で知らせている。金銭管理は、家族に報告し認めサインもある。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に利用者や家族も参加して意見を言われ、地域の方からの要望も適切に処理され、記録もある。グループホーム内に「意見箱」も置いて担当者も決まっており、公的機関への苦情申し立てができる事も重要事項説明書に記載し説明している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、2ユニット間だけであり、利用者にダメージを与えないように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員が段階別に研修を受講することや、職員の希望を尊重して研修を受講したり、資格取得をする事を奨励してくれている。年間研修計画(外部研修、法人内研修)やその実施報告もあり回覧した職員のサインもある。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に加入し、近隣のグループホームと相互訪問をして事例検討会や情報交換をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、家族や本人に見学して雰囲気を知ってもらい、体験入所や行事への参加をしてもらいながら納得して利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員の共同生活を「ふれあい」という理念の中に込めて、調理の得意な人には調理に参加してもらう等、個人のやりたい事を尊重し相互に教え合い、支えあうようにして協同して生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかから、利用者の言葉や行動から本人の意向を把握し、そのことを尊重して取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成には、利用者の気持ちを大切にし、家族や、医療関係者、職員の意見も収集し連携して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しや利用者の身体状況に変化のある時は、家族や医師、職員、利用者の意見を尊重しながら現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとられている。医療相談から生活相談まで、柔軟に利用者の相談に応じ支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、かかりつけ医への通院は、家族の都合によっては受診介助をしている。病状については家族にすぐ連絡をしている。医療連携体制加算をとられており、毎日看護師による健康支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「急変時の対応マニュアル」「重度化した場合の対応の指針」を作成し、全職員で方針を共有し、利用者、家族に説明している。終末期には、家族と医師で話し合い取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報保護管理委員会」があり文書を作成し、職員にも説明して、利用者、家族にも同意も得ている。日々の暮らしの中で、尊厳を傷つけるような言葉かけがないよう、細心の注意を払い支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が横になったり、食べたり、歌ったり、一人でいたい等の思いを尊重し、希望に添うようにしている。職員の都合を優先していないので自然なゆったりした時間が流れていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けを自発的にされる人がおり、生き生きと動いている姿が見られた。利用者と職員が共に食卓を囲んで同じ物を食べ、楽しい食事支援がされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせていつでも入浴できるように支援している。利用者の入浴回数を把握し、清潔を保つようして楽しみながら入浴をするように支援している。また、希望によっては足浴もされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望、生活歴を聞いて、その人の得意な事を活かして役割分担表を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩、買い物等、職員と外出している。また、外食やドライブなどにも行き、外へ出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけていない。利用者の様子は、職員の位置から無理なく知ることができるようになっており、落ち着いて生活できるような支援がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。消防署に依頼して消火器の使い方を指導してもらい、避難誘導図の作成、緊急時の連絡方法も決めている。近所にも訓練の案内を出し、運営推進会議のメンバーの方に協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立やカロリー計算は、栄養士が行っており、医師にも助言をもらい、水分摂取量、食事摂取量の把握をしながら、必要な人には栄養ドリンクで補う時もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るいピンク色の壁紙やカーテンで統一しており、季節の花を飾り、楽しい行事の写真が沢山飾ってある。温かい陽差しが室内に適度に入り、室内全体が明るい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、手作りの小物や写真、大切にしている置物があり、過ごしやすように工夫し、居心地がよい居室作りがされている。		